

富山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会概要
(第25回子ども・子育て会議)

1 開 会 (10時から)

(定員数：委員の過半数が出席していることを確認。池館委員、草野委員、八木委員、山村委員 各委員欠席)

2 こども家庭部長挨拶

3 議 事

(1) 第3期富山市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた「ニーズ調査」及び「子どもの生活実態に関する調査」について

【主な意見等】

子ども・子育て支援事業にかかるニーズ調査について

委 員 配布されたパンフレット「子育てナビ」を問30の回答項目に加えたらどうか。またこのパンフレットの配布はいつからか。

事 務 局 「子育てナビ」は、市の子育て支援ウェブサイト「育さぽとやま」につながるようになっており、問30の回答項目7の中に含まれている。

このパンフレットは民生委員児童委員など地域で子育て家庭を支援する方々を対象に作成したものであり、既に配布を開始している。

委 員 問11「子育てに関する不安や悩みを誰に相談していますか」について、0・1歳児の保護者を考えると前回調査票（問10—1「気軽に相談できる先」）の回答項目にあった「かかりつけの医師」や「保健福祉センター（保健師）」が選択肢に含まれてもよいと思われるが、今回削除した理由はあるのか。

事 務 局 保健福祉センターは選択肢8の「専門の相談員」に含めて考えていたが、ご意見のとおりわかりにくい部分もある。未就学児の保護者にとって「かかりつけの医師」や「保健福祉センター（保健師）」が相談窓口として多いのではないかというご意見を伺ったので、回答項目の追加について検討したい。

委 員 未就学児の保護者の回答率について、地域に対してどのように周知して回収率をあげていくかということが調査の一番の要かと思うが、対策についてどのように考えているか。

事 務 局 学校に協力いただいて実施している小学生の保護者については、前回は回答率が高い（97%）が、未就学児の保護者については61%となっている、未就学児の保護者については、無作為で抽出された7,500名に郵送で配布となっ

ている。郵送での回答がハードルの高い保護者に対して少しでも回答率が高くなるよう、URL のアドレス又は QR コードからスマートフォンで回答できるよう配慮した。

委員 調査票の就学前児童というのは、何歳を指すのか。0歳から年長まで（平成30年4月1日生まれまで）の児童のなかでバランスがとれるような形で抽出されるのか。

事務局 そのとおり。

委員 分析する際の観点を聞きたい。本調査からは、就労状況やサポート支援と実際の利用状況・利用人数を比較することはできると思われる。

一方で、ひとり親家庭や障害をもつ子を育てる家庭のニーズはどの程度分析される予定があるのか。例えば、療育機関を利用しているか等の設問は全くないが、どのように検討しているのか。

事務局 確かに本調査の世帯分類をみると、ひとり親家庭の把握はできると思うが、子どもの障害の有無については特段あがっていない。基本的に今回のニーズ調査は子ども・子育て支援事業の必要量のニーズ調査であり、障害児のニーズ量を把握する調査ではないため、国の様式にも定められていないと認識している。

委員 例えば、調査票問15-1の定期的にご利用している教育・保育事業の項目のなかに、療育機関を含めることはどうか。現実としては、療育機関を利用・併用している方もいると思う。

事務局 主として、子ども・子育て支援事業の必要量を把握することが調査の目的であるが、項目として児童発達支援を含めることも検討していきたい。

委員 問14の選択項目として、「就労したいが見通しが立たない」世帯を拾い上げる項目を追加してほしい。見通しが立たない理由まで問うのかという点は検討が必要だが、少なくともそのような世帯がどのくらいあるかということの把握ぐらいいはあってもよいのではないか。

委員 回答者側にたつと「就労したいが見通しが立たない」という選択項目を追加すると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と考えている方が、見通しが立っていないと選択できないということになり、逆に回答を限定してしまう恐れがある。

事務局 意見を踏まえて検討したい。

委員 子育て中の保護者が日々の忙しさの中でこの調査に取り組むのは大変な負担になる。保護者が少しでも自分の回答が富山市の施策に反映されることが感じられる、希望がもてるような文章であればよいと思う

言葉の1つ1つに何かつながるもの、地域の方がいろいろな所でつながっているといたことが伝わると、回答者も書きやすいのではないか。

事務局 市のほうでも、決まった項目にただ丸をつけるだけだとなかなか響かない部分もあるのではないかという思いもあり、今回最終ページに自由記載の項目を追加した。その部分で少しでも率直な意見を市に届けられるという思いを感じてもらえたらと思っている。

委員 例えば、表紙の文章など、もう少しやわらかい表現に変えてみてはどうか。

委員 小学生の保護者への調査票において、問17の選択項目に「保育園に関する情報」や「外出先のベビーベッドの情報」など小学生の保護者に直接関係ないようなものが含まれている。

また、小学校に行きづらく感じている子の保護者は一定数いると思われるので、その保護者への関連情報も項目に追加したらどうか。

事務局 小学生の保護者には直接関係しない項目だが、下の兄弟姉妹のことも含めて広く意見を聴く目的で、市独自の質問としてあえて項目に含めている。

委員 支援学校には調査を配布するのか。

事務局 配布は市立の小学校のみ。

先ほど未就学児童の保護者調査票にいただいたご意見は、小学生の保護者調査票で重複する質問についても同様に検討したい。

子どもの生活実態調査について

委員 多言語の様式は作成しているのか。

事務局 生活実態調査は全数調査であるため、言語の問題から回答が難しいケースがあった場合は、次回の調査への検討事項としたい。

委員 いくつかの小学校や中学校には日本語指導員がいる。学校から依頼があれば日本語指導員を派遣することもできるようになっている。

事務局 生活実態調査【中学生票】問9の選択項目「ゲームセンター、ネットカフェ、ファミレス、コンビニ」は、商業施設という認識で問題ないか。

委員 「商業施設」と捉えていただいて問題ない。表現については検討したい

委員 生活実態調査【小学生票】問12の選択項目に、「特に理由はない」を追加したらどうか。必ずしも理由があるわけではないと思う。

また、問13の調査項目について、選択項目「兄弟、姉妹など家族の世話」の中に、ヤングケアラーを調査対象にしたということであれば、親や祖父母も含めてはどうか。

さらに、該当する子どもの負担感を問う設問はなくてもよいのか。

生活実態調査【保護者票】問18の選択項目に、スクールカウンセラーや教師など「学校関係者」も含めて欲しい。

委員 【小学生票】問20ではこどもの心の負担になる設問が多いが、心のケアができるサポート体制は市として整っているのか。子どもほっとダイヤルの掲載があるが連携はとれているのか。

事務局 相談先として子どもほっとダイヤルを掲載しているが、子どもほっとダイヤル担当所属と連携し、フォローできるように検討していきたい。

委員 調査票の表紙に「答えたくない質問やよくわからない質問は、とばして次に進んでください」とあるので、そのあたりをしっかりと伝えて配布すれば、答えやすいと思う。

委員 昨年度、県がアンケートを実施した際の子どもや保護者からの反応について、情報提供はあったか。

事務局 結果は情報提供いただいているが、ご質問の点については県に確認する。

委員 調査票の設問で、選択肢が「1. 母親」「2. 父親」と、女性が先に書かれているが、「子育ては母親のものだ」という意識なのか。父母という表現が一般的だと思われるが。

事務局 どのような表現とするか検討したい。

委員 学年が上がって中学生にもなってくると、悩み事相談できずに抱え込んでしまうこともある。今後、「子育てナビ」の内容を更新する際には、そういった支援についても掲載してほしい。こども家庭部のみならず、教育委員会などとも連携して、切れ目のない支援を行ってほしい。

(12時00分終了)